

平成29年度
東京外国語大学秋期間アカデミー講座

「コーパスから見えることば・文化・社会」

企画：東京外国語大学 語学研究所

ご案内

このたび語学研究所では「コーパスから見えることば・文化・社会」をテーマに講座を企画・開講することとなりました。

ことばの研究ではコーパスが盛んに利用されています。コーパスとは新聞や本の文章あるいは話し言葉などを集めた言語資料で、コンピュータで大量のデータが瞬時に検索できます。この講座では英語、ドイツ語、フランス語、アラビア語、日本語、朝鮮語を対象に、コーパスを利用することで、それぞれのことばが実際にどのように使われているのかを調べながら、ことば・文化・社会について考えます。広くことばに関心のある方のご参加をお待ちいたしております。

日程・講師

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 10月10日(火) | 「コーパスから見えるドイツのことば・文化・社会」
成田 節 東京外国語大学教授 |
| 第2回 | 10月17日(火) | 「コーパスから学ぶフランス語」
秋廣尚恵 東京外国語大学准教授 |
| 第3回 | 10月24日(火) | 「コーパスから見える20世紀韓国の言葉と社会」
南 潤珍 東京外国語大学准教授 |
| 第4回 | 10月31日(火) | 「コーパスから探る英語話者の世界の見方」
大谷直輝 東京外国語大学講師 |
| 第5回 | 11月7日(火) | 「アラブ映画のシナリオから見えたこと」
長渡陽一 東京外国語大学非常勤講師 |
| 第6回 | 11月14日(火) | 「日本語：数億語のコーパスを作って調べてみるとみえてくる
頻出語、頻出表現」
望月 源 東京外国語大学准教授 |

- いずれも火曜日、19:20～20:50（質疑応答を含む）
- 専門知識・予備知識は必要ありません。
- 教材は各回ごとに配布します。教材費は不要です。
- 最終回に受講証書を授与します。
- 毎回教室入り口の受付において出席を取ります。
- 記録保存のために、教室後方から講演の様子を撮影させていただきます。ご了承ください。

会場

東京外国語大学 府中キャンパス 講義室

〒113-0033 東京都府中市朝日町 3-11-1 （駐車場はございません）

<http://www.tufs.ac.jp/access/tama.html>

- JR 中央線： 「武蔵境」駅のりかえ、西武多摩川線「多磨」駅下車、徒歩 5 分（JR 新宿駅から約 40 分）
- 京王電鉄： 「飛田給」駅北口より「多磨」駅行き京王バスにて約 10 分、「東京外国語大学前」下車



お問い合わせ先

東京外国語大学

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

受講申込みについては...

⇒⇒ 総務企画課

Tel : 042-330-5823 / Fax : 042-330-5140 / E-mail : tufs-openacademy@tufs.ac.jp

ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/open-academy/index.html>

講座の内容については...

⇒⇒ 語学研究所

Tel : 042-330-5407 / Fax : 042-330-5408 / E-mail : ilr419@tufs.ac.jp

ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/index.html>

各回の概要

第1回 10月10日（火）

「コーパスから見えるドイツのことば・文化・社会」

講師：成田 節 東京外国語大学教授

ことばの研究ではコーパスが盛んに利用されています。コーパスとは新聞や本の文章あるいは話し言葉などを集めた言語資料で、コンピュータで大量のデータ — 中には単語数にして数十億語のものもあります — を瞬時に検索することができます。この講座の第1回目では、コーパス一般について概説した後で、ドイツ語の大規模コーパス、特にマンハイムのドイツ語研究所で公開している COSMAS II とベルリン・ブランデンブルク科学アカデミーで開発している DWDS を中心にドイツ語の大規模コーパスを紹介し、それらを利用することでドイツ語が実際にどのように使われているのかを調べながら、ことば・文化・社会について考えてみましょう。具体的な事例を紹介しながらわかりやすくお話しします。

第2回 10月17日（火）

「コーパスから学ぶフランス語」

講師：秋廣尚恵 東京外国語大学准教授

フランス語の言語研究、教育において、コーパスの存在は重要性を増しています。ラテン・ギリシャの古典語の学習に始まる伝統文法に基づいて行われてきた教育も、現在では、事例を取り入れ、コンテキストを重視した教育へと変わりつつあります。この講義では、まずコーパスとは何か、どうしてコーパスが言語研究や教育に役立つのかをお話します。そして、実際に公開されているコーパスのデータを検索しつつ、皆さまにコーパスを使ってフランス語を学ぶことを体験して頂きたいと思います。予備知識などは一切必要としません。事例からフランス語を、そしてその言語の背後にあるものを発見するひと時となれば幸いです。

第3回 10月24日（火）

「コーパスから見える20世紀韓国の言葉と社会」

講師：南 潤珍 東京外国語大学准教授

韓国の電子コーパスは自動翻訳や情報検索、辞書編纂のために1980年代から始まりました。1998年からは政府の「国語情報化」政策の一環として大規模のコーパスが作られ、その結果、様々なコーパスが利用できるようになりました。今回の講義では、数多い韓国のコーパスのうち、2016年に公開された「延世20世紀コーパス」を対象に小説や新聞・雑誌など文献のジャンルによって単語の使用がどのように変化してきたのかを見ていきます。

韓国の20世紀は、政治・経済のみならず社会・文化の面でも大きな変化を遂げた激動の時代であり、そのような社会の変化と言葉がどのように関連付けられるかを一緒に考えてみたいと思います。

第4回 10月31日 (火)

「コーパスから探る英語話者の世界の見方」

講師：大谷直輝 東京外国語大学講師

電子化された言語データの総体であるコーパスには、現実使用されるありのままのことばの姿が現れます。コーパスに現れることばの姿は、学校で教えられる規範的な文法とはかなり異なることもあります。また、コーパスに収集されている言語データは、言葉の使用者である私たち人間が世界をどのようなものとして捉えているかの手掛かりにもなります。

本講座では、英語の大規模コーパスの一つである *The British National Corpus* を用いて前置詞、形容詞、句動詞などの基本的な文法事項を見ていきます。英語の母語話者の意識的・無意識的な言語の使用を数値化することで、英語の話者が世界をどのようなものとして捉え、どのような言語形式を用いて認識した世界を表しているかについて考えていきたいと思います。

第5回 11月7日 (火)

「アラブ映画のシナリオから見たこと」

講師：長渡陽一 東京外国語大学非常勤講師

アラビア語は、話し言葉と書き言葉がかなり違っています。アラビア語を勉強する私たちにとっては、どう違うのか、どのくらい違うのかが、大きな問題です。映画は話し言葉で話されているので、そのシナリオで使われている単語を、文語の単語と比較してみました。また、エジプトの話し言葉では疑問詞「何」が文末に来るのですが、文頭に来る場合もあって謎でした。それもシナリオの中の文で確認してみました。

第6回 11月14日 (火)

「日本語：数億語のコーパスを作って調べるとみえてくる頻出語、頻出表現」

講師：望月 源 東京外国語大学准教授

我々が生活の中で実際に使っている言語を「データ」として集めて電子的に利用可能にすると「コーパス」になります。今日では、WWWのホームページ、ブログ、電子ニュースなど、言語データとして利用できる情報が大量に流通しています。本講義では、実際にどのようにしてコーパスを作成するのか、いくつかの実例を示して簡単に説明します。また、日本語の数億語規模のコーパスを調べて、どんな語、どんな表現が実際によく使われているのかを確かめます。実際のデータから得られる結果は、皆さんの直感と合うか、あるいは予想外になるのか、理由も含めて一緒に考えたいと思います。
